

エルゴノミクスについて

エルゴノミクスとは？

ERGONOMICS (エルゴノミクス:人間工学) の名称はギリシャ語の ERGON (労働) と NOMOS (自然の法則) に由来しており、「作業の法則の学問」が語源となっている。日本においては人間工学と訳されることが一般的だが、僅かなニュアンスの違いで使い分けられる場合もあり、エルゴノミクスの定義は多々存在する。約 50 年前から発達した新しい学問分野であるエルゴノミクスは、快適な労働環境の創造を目的に、産業現場だけに留まらず、消費商品、住まい、道路交通、病院、スポーツ、レジャーなど広範な領域で注目を浴びている。

エルゴノミクスのパイオニア、ジロフレックス

コンピュータの急速な普及によって情報社会と呼ばれるようになった今日、オフィスチェアは外観よりも機能性や座り心地が重要視されるようになってきている。日々使用される椅子と医学の関連性にいち早く着目したジロフレックス社では、1919 年より次世代のニーズを見据えて、エルゴノミクスという新しい概念に基づいて長年に渡る科学研究と分析を重ねてきた。1960 年代には E.グランジャン教授との密接な協力のもと、椅子の設計は角度、半径、高さ、奥行きおよび DIN (ドイツ標準規格)・EU (ヨーロッパ標準規格) の規格など人間工学、人体解剖学的要求基準のすべてを満たし“正しい椅子”の開発に成功を収め、椅子の歴史に多大な転換期をもたらした。以来ジロフレックス社の椅子は、長時間の着座姿勢が引き起こす人体の脊柱、椎間板、腰椎、骨盤など脊椎の障害を防ぎ、現代のオフィスワーカーに健康的な労働環境を提供している。

エティエンヌ・グランジャン (1914~1991)

E. グランジャン名誉教授 (Professor Dr. med. Etienne Grandjean) は人間工学分野の研究におけるパイオニア的存在。1914 年ベルン生まれ。1939 年に MD を取得後、1950 年から 1983 年までの間、チューリヒのスイス連邦工科大学 (ETH) で衛生・労働生理学研究所長を務める。彼の学説と研究はスイスのみならず国際的にも大きな反響を生んでおり、その貢献に対し幾つかの国際賞を獲得しているほか、サーレイ大学、シュットガルト大学、ジュネーブ大学からも名誉博士号を与えられている。1961 年には国際人間工学会の創設に参画し 1970 年まで会長を務めた。

グランジャンはエルゴノミクスを「仕事場での人間の行動と反応を科学する研究学門であり、その目的はその人物の能力と要求に労働環境を適応させることである」と定義づけ、“座り”が人体に及ぼす影響や人間の心理状態、室内の気温、音響にいたるまで 10 年間にもおよぶ研究を重ね、快適な労働環境の確立に先駆的な役割を果たした。グランジャンはこれまで約 300 項目にもおよぶ研究資料を発表、著書も多数出版しており 10 カ国語以上に翻訳されている。

1992 年に日本語で出版された著書『産業人間工学』(原著書:1987)でグランジャンは、ジロフレックスの“シントップ・チェア”について「最も洗練された事務用椅子で、特に VDT (Visual Display Terminal: パソコンやワープロなどの表示端末および画面) のワークステーションに向く椅子」と評しており、「椅子の設計に、人間工学の成果を適用した興味ある事例である」と記述している。なお、シントップ・シリーズは 1984 年にジロフレックス社エルヴィン・ホルト社長がスイスのモントルーで開催されたエルゴデザイン学会にて発表したもので、現在までの総売上台数は世界各国で 150 万台以上を記録している。

【日本語著書】

- 『住居と人間』 E. グランジャン (鎌田清子 他訳) 日本出版サービス
- 『産業人間工学～快適職場をデザインする～』 E. グランジャン (中迫 勝 他訳) 啓学出版 1992 年
- 『コンピュータ化のオフィスの人間工学』 E. グランジャン (中迫 勝 他訳) 啓学出版 1989 年
- 『住居と人間 住居における人間工学的基礎データ』 E. グランジャン (洪悦郎 他訳) 人間と技術社 1978 年